

5 優秀研究業績全国水産試験場長会会長賞表彰

(1) 審査委員長経過報告・講評

全国水産試験場長会副会長 木村 稔

審査委員長の木村でございます。審査委員会の経過及び結果についてご報告します。規定に基づき、3つのブロックより推薦のあった各表彰候補について、10月25日にリモートにより、会長賞表彰審査委員会を開催し審査を行いました。

審査にあたり、各推薦ブロックの幹事から推薦理由を説明後、各担当者からプレゼンテーションによって研究業績の内容が発表されました。推薦調書とプレゼンテーションをもとに、全国のブロック幹事から選出されました審査委員長を含む5名の審査委員により規定に基づき、「地域の水産業の振興に貢献するか」、「試験研究の成果が今後の水産試験研究の発展に寄与すると認められるかどうか」、主にこの2点を評価の視点として審査を行いました。その結果、いずれも令和3年度全国水産試験場長会会長表彰を受けるにふさわしい業績であると判断しました。

資料に選考理由を記載していますので、後ほどご覧ください。このあと3名の受賞講演がありますが、どれも素晴らしい研究で、地域で奮闘している水産試験場の研究者の皆様に改めて敬意を表したいと思います。本日はおめでとうございます。簡単ですが以上で報告と講評を終わります。

令和3年10月26日

令和3年度全国水産試験場長会会長賞表彰審査委員会審査結果報告書

全国水産試験場長会
会長 河村 智志 様

全国水産試験場長会
優秀研究業績表彰審査委員会
審査委員長 木村 稔

令和3年度全国水産試験場長会会長賞表彰候補に推薦された3業績について、下記のとおり審査委員会を開催して審査した結果を報告します。

記

開催日時：令和3年10月25日（月）13:30～15:15

開催方法：Webによる推薦業績の説明と審査

出席者：

審査委員

委員長	木村 稔	（北海道ブロック：北海道立総合研究機構水産研究本部 本部長）
委員	藤田 弘一	（東海ブロック：三重県水産研究所 所長）
	長嶋 聡	（関東・甲信越ブロック：埼玉県水産研究所 所長）
	菊谷 尚久	（東北ブロック：青森県産業技術センター 水産総合研究所 理事長兼所長）
	桧垣 俊司	（瀬戸内海ブロック：愛媛県農林水産研究所 水産研究センター長）
	山本 達也	（東北・北海道ブロック：福島県内水面水産試験場 場長） 欠席

推薦ブロック幹事

海面	田子 泰彦	（北部日本海ブロック：富山県農林水産総合技術センター-水産研究所 所長）
海面	古川 英一	（九州・山口ブロック：大分県農林水産研究指導センター-水産研究部 部長）
内水面	加藤 利弘	（西日本海ブロック：愛媛県農林水産研究所水産研究センター 栽培資源研究所 所長）

説明者

海面	高木 牧子	（北部日本海ブロック：山形県水産研究所 資源利用部）
海面	濱崎 将臣	（九州・山口ブロック：長崎県総合水産試験場 研究員）
内水面	酒井 明久	（西日本海ブロック 滋賀県農政水産部水産課 参事（滋賀県水産試験場））

オブザーバー

会長	河村 智志	（新潟県水産海洋研究所 所長）
特別幹事	小野 淳	（東京都島しょ農林水産総合センター 振興企画室 室長） 欠席
事務局	池田 徹	（新潟県水産海洋研究所 漁業課 参事）
全国大会事務局	野呂 恭成	（青森県産業技術センター水産総合研究所 総括主幹研究専門員）

審査結果：

海面部会 2 ブロックと内水面部会 1 ブロックから推薦のあった以下の 3 業績について、推薦理由を各推薦ブロック幹事から、推薦業績を各研究担当者からそれぞれ説明を受けて審査した結果、いずれも令和 3 年度全国水産試験場長会会長賞表彰を受けるにふさわしい業績と判断されました。

(1) 海面部会 北部日本海ブロック

「庄内おばこサワラのブランド力維持と研究所が果たす役割」

山形県水産研究所 資源利用部

庄内おばこサワラ研究チーム

代表者 高木 牧子

選考理由：

庄内おばこサワラのブランド化において、水産研究所がブランドの根幹に関わる品質の評価や維持の部分で重要な役割を担った。水産物利用加工に関する試験研究機関の役割が地域の漁業関係者から高く評価され、資源利用部の新設やおいしい魚加工支援ラボの建設、新たな試験研究課題に繋がっている。これらの成果は地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められる。

(2) 海面部会 九州・山口ブロック

「全雄トラフグ種苗生産技術の開発」

長崎県総合水産試験場・種苗量産センター魚類科

研究員 濱崎 将臣

選考理由：

全雄トラフグ種苗生産技術の開発により、トラフグ養殖の収益改善や経営安定に大きく貢献できると期待され、実用化に向けた養殖試験も進んでおり、順調に成果が出ている。一連の研究から社会実装も実現しており、これらの成果は地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められる。

(3) 内水面部会 西日本ブロック

「琵琶湖産アユの成長、冬季の減耗、遡上回遊の年変動に関する研究」

滋賀県水産試験場（現：滋賀県農政水産部水産課 参事）

酒井 明久

選考理由：

本研究により、琵琶湖産アユの成長、冬の生残および遡上回遊の年変動と、これに関係する要因の数値的な解析が可能となり、今後もアユ資源と漁場環境のモニタリングを継続することにより、多くの知見が蓄積され、科学的な根拠に基づくアユ資源の合理的利用が一層進展することが期待される。これらの成果は地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められる。

(2) 副賞授与・コメント

地域水産試験研究促進奨励会代表 川口恭一

地域水産試験研究促進奨励会代表の川口です。

先ず、受賞された3機関の皆様にお喜びとお祝いを申し上げます。

全国を対象とする水産関係団体は、日頃から水試等の研究成果を基礎として業務を遂行してきています。そのためにも、皆様方との緊密かつ円滑な連携が重要であると考えています。

そこで、平成28年度から「全国水産技術協会」として副賞を贈呈し応援してまいりました。今年で6年目になります。

途中、副賞の充実強化を要望される声、また、オール水産関係団体で応援しようとの声などが高まり、配布資料にある11の全国水産関係団体により、昨年度から「地域水産試験研究等促進奨励会」を創設し、事業の充実強化、活動の持続性確保を図ったところです。

本日、この会場にはJAFICの和田会長、マリンプルーの坂本専務、全内漁連の御手洗課長も出席しています。

このような経過について皆様方のご理解を賜り、引き続き一層の連携協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

なお、副賞の「図書券10万円」については、先ほどそれぞれの受賞者所属機関あて発送しましたのでお受け取りください。

全国水産試験場長会の皆様

本年の全国大会は、オンライン方式により開催されることとなりましたので、このような形でごあいさつ申し上げます。

地域水産業等を対象に業務を展開する全国的な水産関係団体は、水試等の試験研究等の成果を基礎とし、これら機関と連携して業務展開を図ってきているところであり、両者の緊密かつ円滑な連携が極めて重要と考えています。

このため昨年度から別様の水産関係団体が「地域水産試験研究促進奨励会」を構成し、一般社団法人全国水産技術協会が行なってきた「優秀研究業績表彰」に対する事業を継承発展させ実施してきたところです。

今年度も下表に掲載する水産関係団体により、昨年度に引き続き優秀研究業績表彰に対する副賞贈呈の事業を実施することといたしました（参考：優秀研究業績表彰副賞＝図書券 10 万円/件×3 件）。

場長会の皆様方には、このような経過をご理解賜り、引き続き一層の連携を頂くことができますようよろしくお願い申し上げます。

令和3年11月18日

地域水産試験研究等促進奨励会

団体名	ホームページ URL
公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構	http://www.umitonagisa.or.jp/
公益財団法人 海外漁業協力財団	http://www.ofcf.or.jp/
一般社団法人 漁業情報サービスセンター	http://www.jafic.or.jp
全国漁業協同組合連合会	http://www.zengyoren.or.jp/
一般社団法人 全国水産技術協会	http://www.jfsta.or.jp
全国内水面漁業協同組合連合会	http://www.naisuimen.or.jp
公益社団法人 全国豊かな海づくり推進協会	http://www.yutakanaumi.jp/
一般社団法人 大日本水産会	http://www.suisankai.or.jp
一般財団法人 東京水産振興会	http://www.suisan-shinkou.or.jp/
公益社団法人 日本水産資源保護協会	http://www.fish-jfrca.jp/
一般社団法人 マリノフォーラム21	https://www.mf21.or.jp
事務局	全国水産技術協会（川口、増村）

（令和3年11月18日現在、五十音順）